



第4回スピーチ集会

「敬語を使う大切さ」

(3年 川満 タ)

皆さんは敬語をきちんと正しく伝えていますか？中学校に入り当たり前のよう使う敬語ですが、一年生の皆さんは特に使うのが難しいと思っている人もいるかも知れません。とは言っても、敬語はとても難しいものです。それを正しく使うには、たくさんの練習が必要です。私も中学校に入学してから敬語のの難しさを改めて感じました。

そこで、前から気になっていた敬語を人々が使うようになった歴史を調べてみることにしました。

まずはじめに、日本語には人物を「上位者」という「自分より上の立場の人」として表す専用の形式があります。それは中学校で学習する尊敬語と謙譲語、丁寧語です。これらのうち尊敬語と謙譲語は700年代頃にはすでに使われていて、900年代頃には謙譲語から丁寧語も生まれていたということが分かっています。それらは古代の身分制社会において上下関係を表す専用の形式が必要とされたため生まれたと考えられているそうです。

一方、現代では社会的なわきまえとして、上下関係を大切にし人間関係をより良くするために使われています。例えば、学校や職場で敬語を使うのは相手が年上だったり、役職が上であることを明確にするためです。なので、先生や先輩などと良い関係性を築くため、または目上の人を尊敬する気持ちを表すためには正しい敬語を使う必要があります。他にも、初対面の人に良い印象を与えるためにも敬語を使う人も多いと思います。突然タメ口で話すと入れないと思われたり、年齢が上だったら非常識だと思われたりと相手が悪い印象を持つ可能性もあります。

私は人が様々な場所で敬語を使うのは相手を敬ったり、自分に良いイメージを持たせることで仕事などを任せたり、地域のひとと仲良くなれたらいいという様なメリットを得ることが出来るからだと思います。敬語をうまく使えず、相手に悪い印象を与えても何もないことはありません。私たちはこれから社会に出たら敬語を今まで以上にたくさん使います。船浦中学校は先輩後輩関係なくみんな仲良しでそこが良いところだと思います。しかし、卒業後社会に出てスムーズに使うためにも今、先生や先輩などに敬語を使うのもとても大切です。日々の生活のどのような場面で敬語を使えば良いかを考えながら毎日を過ごしていく必要があります。

私は来年から高校生になるので、新たに会う人たちと良い関係をつくるためにも今年一年、敬語の使い方を特に意識しながら学校生活を送りたいです。

皆さんも自分の敬語の使い方をもう一度見直して正しく使っていきましょう。



「ペットのいる暮らし」

(2年 仲里 和歌子)

皆さんは、ペットを飼っていますか？私は小学校中学年頃からウサギを飼っており、今は2羽飼っています。今まで共に生活してきて大変だなと思ったこと、よかったこと、そして私にとってどういう存在なのかを私なりに考えて見ました。

まずはじめに、大変だなと思ったことは二つあります。一つ目はゲージで飼っているの毎週2羽分のゲージを外で掃除しなければならぬことです。掃除には約1時間かかります。その間に私を一番困らせているのが蚊です。蚊に襲われ、やつけるだけで時間がかり、掃除どころではありません。ですが、綺麗になったゲージを見ると達成感がありウサギたちも気持ちよさそうにしているので、やって良かったと毎回感じます。

二つ目は、いろんな所をかじることです。例えば充電ケーブル・カバン・財布など、かじってほしくないものをよくかじります。しかも、かじられるものは古いものじゃなくだいたい新しいものなのでさらに困ります。

逆に良かったことは三つあります。まず一つ目は、私が一人の時に遊び相手になってくれることです。二羽中の一羽のウサギは、すぐくすばしっこく途中から鬼ごっこのようになり、たくさん楽しんでいます。

二つ目は、私が夜一人で怖いと感じた時にウサギたちがいつも側にいてくれて心強く安心させられることです。物音などがして怖いと感じてもかわい顔してこちらを見ているウサギたちを見ると恐怖心から、いやしに変わり、怖くなくなります。

三つ目は、とにかくかわいいことです。少し疲れた時などにふれ合うと、とてもいやされ疲れも吹っ飛びます。

このように、飼っていて大変なこともありますが、大変なことを忘れるくらい一緒にいて良かったと思うことがたくさんあります。私にとってウサギたちは大切な家族であり、いやしを与えてくれる大きな存在です。私はあと2年でこの島を出ます。今のように毎日一緒にいらなくなるので、残りの時間はもっと遊び思い出をたくさん作っていきたいです。



沃野



竹富町立
船浦中学校
学校便り
第19号

発行責任者
校長
仲田欣五



＜ふりかえり＞ (川満 タ)

今回は“敬語”をテーマに書きましたが、どういうふうにしたら敬語の大切さが伝わるのかを考えるのにすごく苦労しました。

これからまたこういう文を書く機会があると思うのでその時は相手への伝わりやすさを特に意識してやるようにしたいです。

＜振り返り＞ (仲里和歌子)

私は、どういう内容にするか迷って、すぐに見つけられなかったのでもいろんなことに挑戦したり視野を広くして過ごしてみると書きやすくなると思うので、これからやる人は頑張ってください。